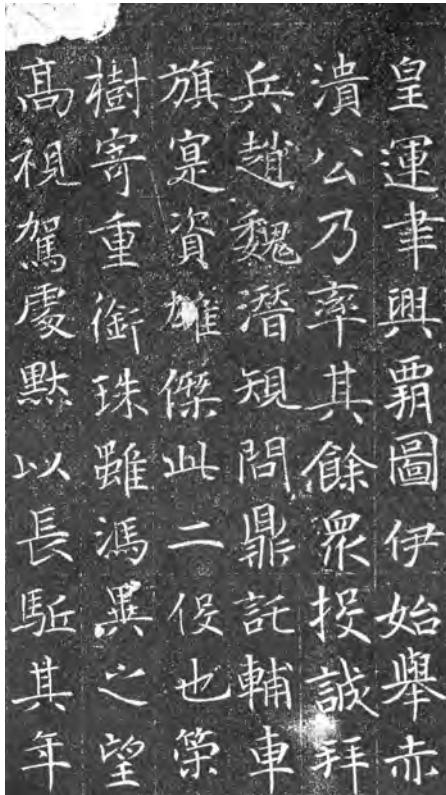


主図版① 「武公」 2字



書体鑑賞・「飛白体」③ 『尉遲敬德墓誌蓋』 唐時代・顯慶4年(659)

図版③ 誌銘本文（部分）



図版④ 三種比較



「昇仙太子碑」



図版② 墓蓋全体



尉遲敬德墓誌（うつちけいとくばし）は、唐の太宗・李世民を埋葬した昭陵の陪葬墓から1970年代に発見され、現在は昭陵博物館に置かれている。誌石は120cm四方とされているが、拓本を実側すると縦横共に1、2cm短い（家蔵整拓本縦117.5×横116cm）。この墓誌が、見事な飛白体で書かれている（図版②）。全5行毎行5字で「大唐故司徒并州都督上柱国鄂國忠武公尉遲府君墓誌之銘」とある。前号の昇仙太子碑よりも40ほど早く、太宗皇帝の晉祠銘の3年後の作であり、歴代飛白書の最多字数の名品である。縦画の一部や左右の払いは、飛白を伴わない鋭い細い線として表現され、飛白の軽やかさの中に強い緊張感を生み出している。飛白の用筆は、晉祠銘よりも昇仙太

伊藤滋

メールアドレス

mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

次号から北涼時代から宋時代の書風である（図版③）。
「写經」を紹介します。

子碑に近い。しかし起筆部分のか一
ルするような打ち込みは、昇仙太子
碑よりも見事に巻き込んでおり、同
年の大唐紀功頌・碑額の飛白の用筆
に近い。刷毛筆をどのように構えて
打ち込むのであるか（図版④）。
理解し難い筆勢である。誌銘の本文
は楷書体で書かれ、やや褚遂良の雁
塔聖教序に通じるような筆勢を具え、
同時に立てられた尉遲敬徳碑に近い
書風である（図版③）。

書道芸術院 平成の群像 (2015)



110×80cm

授業や部活動で指導を受けて本格的に書道の道に入りました。同時に前衛書の世界に足を踏み入れました。山本先生は前衛書を志す者の心得として、古典の線質とその精神をしっかりと学ぶことの大切さを繰り返し説いていた山本事水先生に出会い、

授業や部活動で指導を受けて本格的に書道の道に入りました。同時に前衛書の世界に足を踏み入れました。山本先生は前衛書を志す者の心得として、古典の線質とその精神をしっかりと学ぶことの大切さを繰り返し説いていた山本事水先生に出会い、

女らの書に取り組む環境はみな違いますが、かつての経験から得たかけがえのない達成感や満足感が今に続く活力や新たな創作意欲を生んでいます。一心にうちこむことの大切さを感じさせてくれます。

掲載の作品は『2014毎日書道審査会員群馬展』に出品したものです。洋紙を使い、遠近感のある墨色を追求したもので、私にとって新しい表現を試みました。用具、用材の工夫については試行錯誤の繰り返しでしたが、山本先生からの教えである『美しい線と緊張感に満ちた構成を追求すること』は変わりません。

現代書にかかわる私たちは古典に立脚しながらも常に新しい自分の書を追求していくことが求められています。これからも自分自身の目標を高く据えて、納得できる作品を作れるよう精進を続けていきたいと思

女らの書に取り組む環境はみな違いますが、かつての経験から得たかけがえのない達成感や満足感が今に続く活力や新たな創作意欲を生んでいます。一心にうちこむことの大切さを感じさせてくれます。

掲載の作品は『2014毎日書道審査会員群馬展』に出品したものです。洋紙を使い、遠近感のある墨色を追求したもので、私にとって新しい表現を試みました。用具、用材の工夫については試行錯誤の繰り返しでしたが、山本先生からの教えである『美しい線と緊張感に満ちた構成を追求すること』は変わりません。

現代書にかかわる私たちは古典に立脚しながらも常に新しい自分の書を追求していくことが求められています。これからも自分自身の目標を高く据えて、納得できる作品を作れるよう精進を続けていきたいと思

私は4月から「書道藝術」誌の編集の仕事をさせていただいています。話をいただいた時は私にできるだろうかと不安な気持
ちになりましたが、事務所のみなさんに支
えられて、少しずつ慣れてきたところです。

古典・古筆の解説文を作成するときなどは、わかりやすい言葉で的確に伝えることの難しさをあらためて感じました。これからも、次々と難題を抱えることになると思いますが、学ぶ楽しみを与えたものと想い、努力していきます。よろしくご指導をお願いします。

生徒たちの活動は、全日本学校書道連盟主催の「全国学生書道展」と毎日新聞社主催の「国際高校生選抜書展」を軸に展開されました。これらの書道展への出品を通して、全国の高水準の高校生作品に触れ、互いに刺激し合ったことは、生徒、指導者ともども、大きな成長の機会となりました。

私とともに書道に取り組んだ卒業生のうちの多くが今も書活動を続けています。彼らの書に取り組む環境はみな違いますが、

美しい線を求めて



倉林紅瑤

くださいました。以来、今日までその教えは私の書活動の指針となっています。

また、私は38年間、高校の書道教育に携わってきました。群馬県立高崎女子高校に10年、同県立渋川女子高校に28年間勤務し、3年前に退職しました。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第67回毎日書道展開幕

文部科学大臣賞に下谷洋子さん



文部科学大臣賞受賞の下谷洋子先生

前号で小竹石雲さんの書道顕彰受賞の朗報をお届けしたが、第67回毎日書道展で見事文部科学大臣賞に本院常務理事の下谷洋子さんがご受賞された。去る7月2日の選考会にて決定し、翌日の毎日新聞全国版にて報道された。また「ひと」欄でも取り上げられ、重ねての慶事となつた。第50回までの故種谷扇舟先生以来の快挙である。

今回展では展覧会運営の要職を書道芸術院が担つており、実行委員長、総務部長、同補佐はじめ当番審査、各部委員さらに今後年末まで展開される地方展でも種々ご協力いただき感謝申し上げたい。

前号で小竹石雲さんの書道顕彰受賞の朗報をお届けしたが、第67回毎日書道展で見事文部科学大臣賞に本院常務理事の下谷洋子さんがご受賞された。去る7月2日の選考会にて決定し、翌日の毎日新聞全国版にて報道された。また「ひと」欄でも取り上げられ、重ねての慶事となつた。第50回までの故種谷扇舟先生以来の快挙である。

今回展では展覧会運営の要職を書道芸術院が担つており、実行委員長、総務部長、同補佐はじめ当番審査、各部委員さらに今後年末まで展開される地方展でも種々ご協力いただき感謝申し上げたい。

7月8日午後1時、国立新美術館会場で開幕式が挙行され国立新美術館館長、朝比奈毎日新聞社長らと共に辻元大雲が実行委員長としてテープカットを行つて華々しく開幕した。

また恒例の企画展示に伴う毎日書道会理事・監事によるギャラリートークなどが連日開催され大変な賑わいとなつてゐる。「筆・墨・紙・硯の世界」と銘打ち、専門業者の協力、五島美術館収蔵名品、先達の先生方が使われた用



ギャラリートーク



開幕式

書道芸術院出品者懇親祝賀会

7月19日17時より芝パークホテルにて書道芸術院による毎日書道展出品者祝賀懇親会が220名余の参加者により盛大に開催され、大いに盛り上がつた。展覧会役員はじめ各受賞者の紹介や喜びの挨拶など和やかな祝福に満ちた宴となつた。

また会場近くの居酒屋にて二次会も開催され50名余の参加者で会場に入りきれないほどの賑わいであつた。

日本詩文書作家協会総会開催 新理事長に辻元大雲就任

7月18日(土)、日本詩文書作家協会の総会が上野精養軒にて開催され、役員改選により石飛博光氏から新理事長に辻元大雲が就任、また常任理事に

銀座かねまつ画廊で開催された「玉松会14人展」は玉松会幹部(毎日展会員・書芸審査会員)14名の力作が発表された。恒例の個展コーナーは福島ご活躍の加藤紅樹先生(御年93歳)の代表作と近作が展示発表され、ご高齢を感じさせぬ気力ある作品群に圧倒された。



文春会場

恩地春洋先生率いる春洋会書展は本年限りで閉鎖される銀座文芸春秋画廊でのファイナル展示となり「さよなら文春画廊」とサブタイトルを掲げ、幹部作家の意欲的な大作など見応えある

春洋会書展「さよなら文春画廊」 玉松会14人展盛会に

展覧会であった。初日には大勢の来賓が集い、会場入りきれないくらいの盛況であった。

現代詩文書 (五)

田 村 鄭 雲

前衛書 (五)

太 田 蓮 紅

揮毫について

普段は他の作家が皆上手く見えても良いし、自分の勉強の足りなさや表現力のなさに悩むことも必要でしようが、書作の際は自分が下手とか価値がないとか微塵も思ってはいけません。逃げ場は無いのですから、とにかく気持ちを奮い立たせて取り組む内に自分でな

い誰かが目覚めて今の力以上の作品がでてくるようです。恐れを取り除くのが第一歩です。

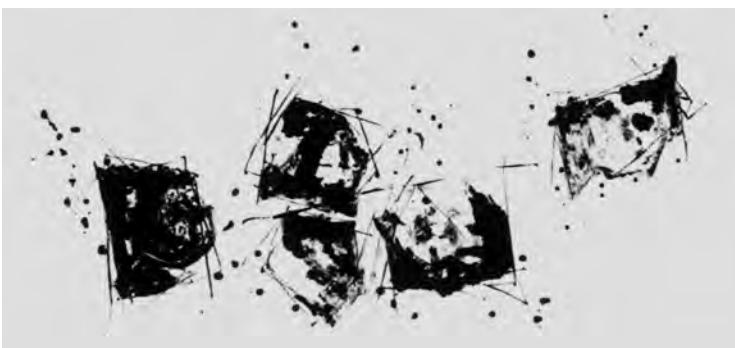
書いて見ると、用意した用紙、単宣は切れ味の良い線が表現出来るが、薄く破れやすい。夾宣は厚く破れにくいので思い切って書けるが、線の切れ味が悪く、潤渴の差が出にくくことになりました。

大作はいくら墨を入れても、潤渴の差が出にくく変化の無い扁平な表現になってしまいます。池が出来るほど起筆で墨を入れても、乾いてしまふとさほどの墨量には感じない。そのため单宣を使用し、筆を押しつけず、穂先で書くよう注意しました。



21世紀の書

—私の主張—



KIZAMU

太田蓮紅書

心を解き放す書

前衛書は心と感情の表現と言つたが、制作している時の自身は一体どんな精神状態なのか。制約の中で苦しみ発想が沸かずにつり果てているだろうか。泉が湧くように豊かな発想で制作し

ているだろうか。バイオリズムの狭間でもがいでいるかもしれない。不調期を乗り切るには基礎勉強（臨書力）がしっかり出来ているかが問われるとかつて師より言われた事を思い出す。

現在我々は年間どれだけの書展と係

てているのだろうか。年令と比例して増え、目に見えない鎖に繋がれているのかかもしれない。だが考えを一転すれば勉強の場を提供されているとも言える。解釈一つで大きく変ってしまう。いつかこんな状況から解放され、心が無となり自然の中に溶け込めた時、心穏やかに楽しく制作することができる期待している。

掲載の作品は、第68回書道芸術院出品作。前衛書は「心の鏡」と言ったが、この作はようやく得ることが出来た心の安らぎの表現である。骨幹となる字は「刻」に至るが、造形を单纯化させ点と線を融合させて配

置し、その中に濃淡の響きによる遠近感や輪郭を加えることで更なる立体感をプラスした。白を全面に出すことで全体を明るくし、黒をより鮮明に印象づけた作である。

平成27年度 新審査会員作品

II 堀田白扇（漢）・都丸みどり（か）・宮本紅雪（現）・目良珠山（漢）



宮本紅雪
(青森)

感動する眼、人間性を磨く事を書の基礎とし、坂本素雪先生のご指導のもと、力強い伊呂波書の会の仲間に支えられて参りました。作品は日本ハムファイターズの栗山監督がいつも色紙に書いている言葉から引用させて頂きました。細いながらも凜とした意思を感じて頂けたら幸いです。

(紅雪)

「夢は正夢」



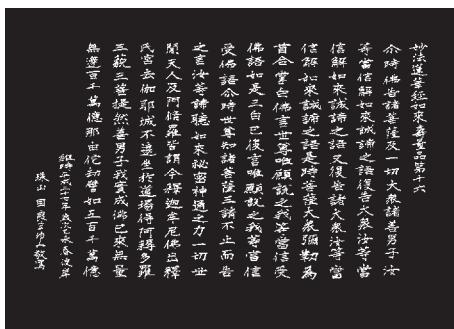
堀田白扇
(大阪)

「途」

まだ途中ば…修行に終わりはなく安住せず、つねに一步を進める工夫と努力を怠らないとの思いを込めて書作しました。竹扇会の門を叩いて30年の節目にこの資格を頂戴しましたこと大変嬉しく励みとなります。

そしていつも温かくお導きくださいます小伏竹村先生、小扇先生に深く感謝申し上げます。

(白扇)

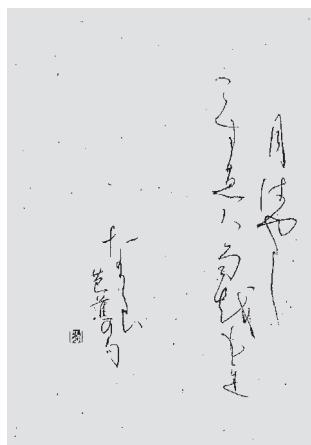


宮本紅雪
(千葉)

「妙法蓮華經如來壽量品第十六」

「個々の人生に生かせる書道」とお考えの飯高和子先生のお陰で、寺院へ嫁した私はお写経と出会いました。筆を持つことで回向し、祈り、願う時間はとても神聖であり感謝致しますと共に、古典の学習に励み、お写経をより深く体得できる様精進致します。

(珠山)



都丸みどり
(群馬)

「月はやしこずゑは
雨を持ちながら」

松尾芭蕉の自然を愛しむ心を少しでも共有出来たらと。この度は審査会員に推挙頂き誠に有り難うございます。下谷洋子先生のご指導を頂ける事になり、書泉会の先輩の皆さんに助けられながらの充実の毎日です。書の道は漸くスタートラインと心得、これからも精進致す所存です。(みどり)



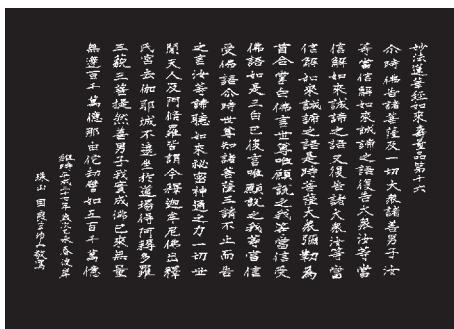
堀田白扇
(大阪)

「途」

まだ途中ば…修行に終わりはなく安住せず、つねに一步を進める工夫と努力を怠らないとの思いを込めて書作しました。竹扇会の門を叩いて30年の節目にこの資格を頂戴しましたこと大変嬉しく励みとなります。

そしていつも温かくお導きくださいます小伏竹村先生、小扇先生に深く感謝申し上げます。

(白扇)



宮本紅雪
(千葉)

「妙法蓮華經如來壽量品第十六」

「個々の人生に生かせる書道」とお考えの飯高和子先生のお陰で、寺院へ嫁した私はお写経と出会いました。筆を持つことで回向し、祈り、願う時間はとても神聖であり感謝致しますと共に、古典の学習に励み、お写経をより深く体得できる様精進致します。

枯樹賦（褚遂良）②

〈解説〉褚遂良は欧阳詢・虞世南とともに「初唐の三大家」と称せられる。その書は、碑では雁塔聖教序・孟法師碑・伊闐公主碑・房玄齡碑などがあり、集帖中に収められているものにこの枯樹賦や文皇哀冊などがある。

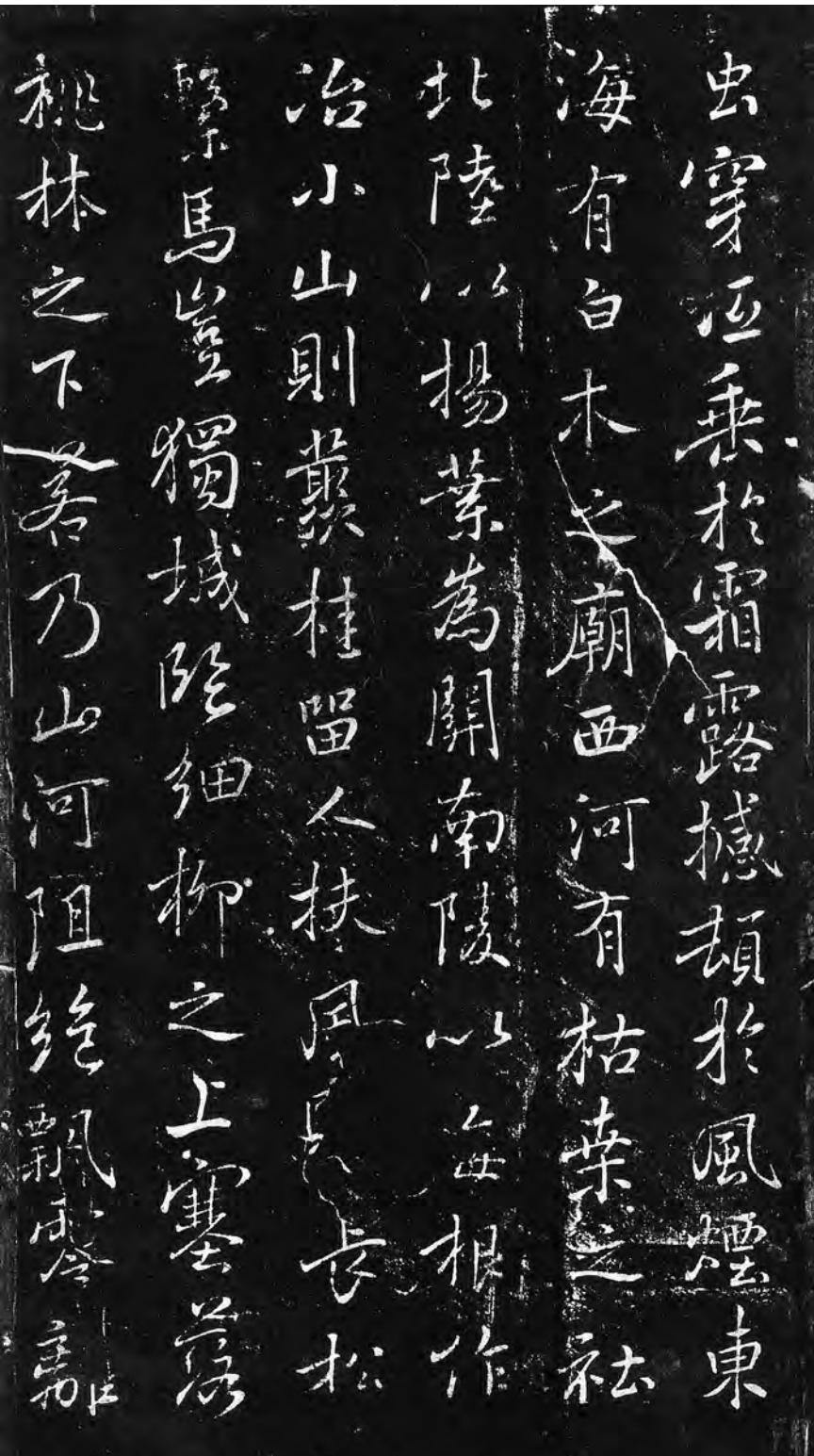
枯樹賦の字形は、右上がりの菱形が多く、縱長で胴がふくらんでいて、横が大きい。一字の中に偏と旁、冠と脚などの大きさや

位置に変化をつけながら、太い線と細い線を組み合わせて、一字構成にたくみなバランス感覚を見せている。

線質はねばりが強く、弾力に富んでいるが軽やかである。俯仰法などの用筆が多く見られ、筆は抑揚緩急の変化をつけながら、ゆっくり運ぶ。また、気脈の貫通に留意して、空間の筆意を保つことも大切である。

（編集部）

当該古典の左記掲載部分以外も可。



(75%縮小)

虫穿。低垂於霜露。撼
頓於風煙。東／海有白
木之廟。西河有枯桑之
社。／北陸以楊爲關。

南陵以樞根作／冶。小
山則叢桂留人。扶風則
圓松／繫馬。豈獨城臨
細柳之上。塞落／桃林
之下。若乃山河阻絕。

國立美術館

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
|| 別紙を裁断して貼付也可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全縞も可)

特別研究部臨書課題

|| (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

よみ いのちあらばいかさまにせんよをしらぬむし
可 佐 万 尔

よのなかを、おもひすつまじきさまにし
可 於 春 律 万 支 佐 万 尔

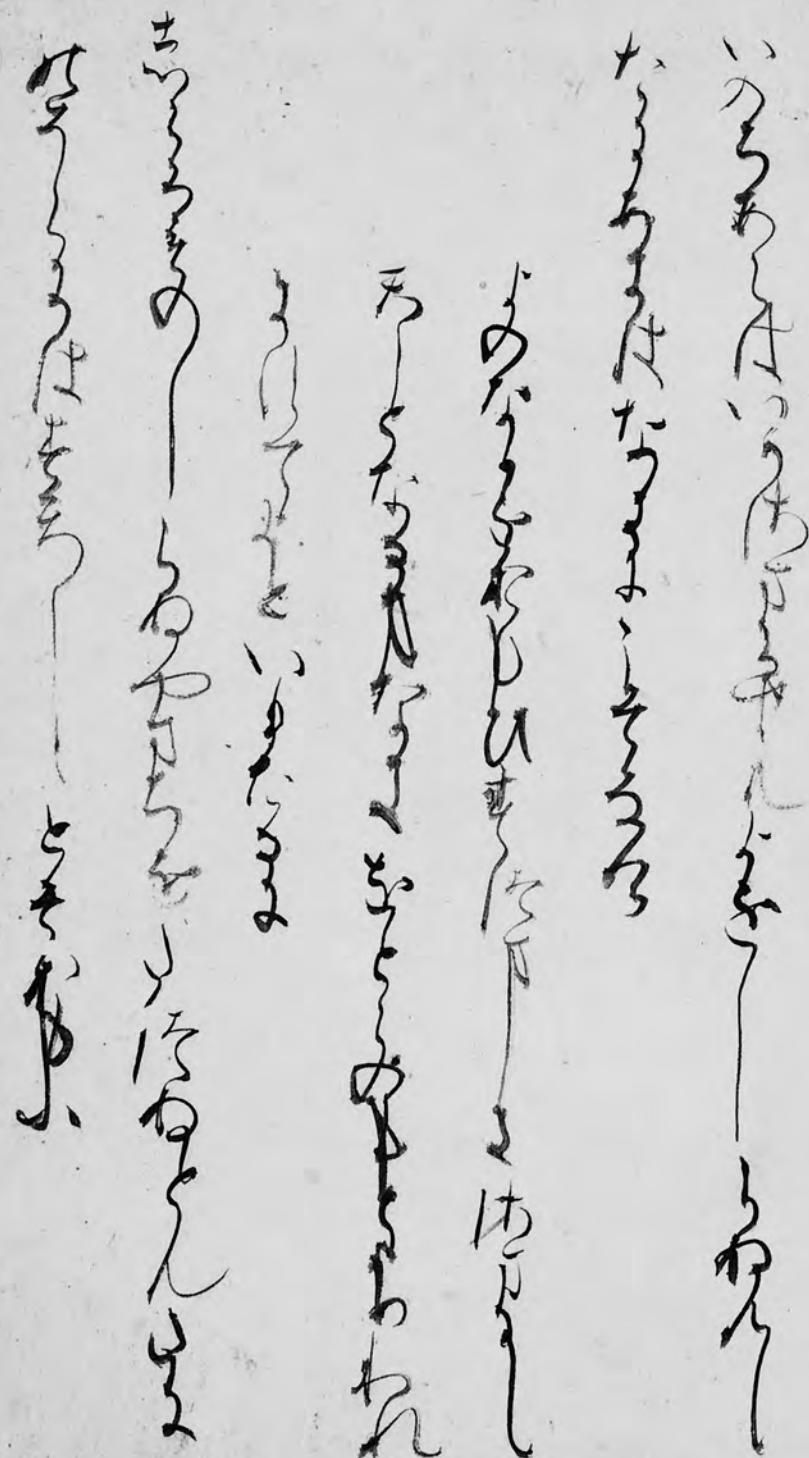
しらくものしらぬやまちをたづぬともたに
志 久 毛 多 律 万 佐 万 尔

だにあきはなきにこそなけ
尔 支 尔 奈 介

て、ことなる事なきをとこのもとより、われ
天 事 な キ 支 利

のそこにはすてじとぞおもふ
能 曹 天 佐 万 尔

にすてよといひたるに
尔 猿 日 佐 万 尔



解説 和泉式部続集切は、細かい筆線を連続させ、緩急抑揚の変化に富んだリズミカルな筆致で書写されている。

特に上巻切は、穂先の弾力を利かせた強韌な線とボリューム豊かな重厚な線が特徴である。さらに巧みな墨継ぎと渴筆を駆使し、筆の自然な変化を活かした爽快感や緊張感のある線が随所にみられる。

また、紙面を明るくするために、他の古筆に比して変化に富んだ「し」を多用しているのもこの古筆の特徴である。

(編集部)

※掲載図版は原寸。
※掲載上の都合により右の余白部分を省略しています。

習い方解説 (五)

小竹石雲

徳不孤必有鄰
(論語)
(徳は孤ならず必ず隣り有り)

簡素で自由な表現を試みた。

連綿で流れや動きを表現すると、
かえって制約が生まれてくるが單
体の方がより自由に表現できる。

文字造型では、淡々とした簡素な
リズムで安定感をねらった。そし
て字中の余白をたっぷり取るよう
心がけた。また点画間の筆脈の流
れを重視し、点画がとぎれとき
れにならないように運筆した。

・徳…偏と旁の間を広く取り、2
本の縦画に潤滑で変化をつ
けた。

・不…3画目の点を左から十分長
くし4画目を軽くした。

・孤…前字の最終画を軽く受け徐
々に加速して最後の3点で
おさめる。

・必…単調にならないように点を
工夫。

徳不孤必有鄰 よみ（徳は孤ならず必ず隣り有り）

書体＝自由



・有…逆三角に対し「鄰」を台形
にし紙面の安定を図った。

習い方解説(五)

大隅晃弘

賢者辟世
(論語)

賢者辟世
(論語)



書体＝楷書

光明皇后の楽毅論を参考に書作しました。石刻拓や双鉤填墨本等とは異なる肉筆古典は、線質の貴重な資料となります。

古典を習い引用する上で、基礎となるものは文字造形だといえます。臨書に形臨というスタイルがあるように、字形を整えて書作することは最も大事なことです。

更なるレベルアップを求めるのであれば、様々な筆づかいから生じる線質の変化についても研究を進めていく必要があるでしょう。

筆幹の傾き・筆穂の開閉・直筆と側筆のコンビネーション等、線質の変化を譲る筆の操作技法は、実際に多様で限りがありません。筆先と紙面が接する感触(＝筆蝕)を意識しながら、線質の創意工夫にも注目してみましょ。

かな規定 初段以上【九月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

習い方解説 (五)

大辻 多希子

をみなへし野邊のふるさと思ひ出でて
宿りし虫の声や恋しき

(新古今和歌集)

今回の作品は、線を省略しながら行を作っている所があります。

二行目のさと・も悲は前の字の最終画と、次の文字の一画目を一体化してつなぎ、滑らかな縦の流れを出しました。

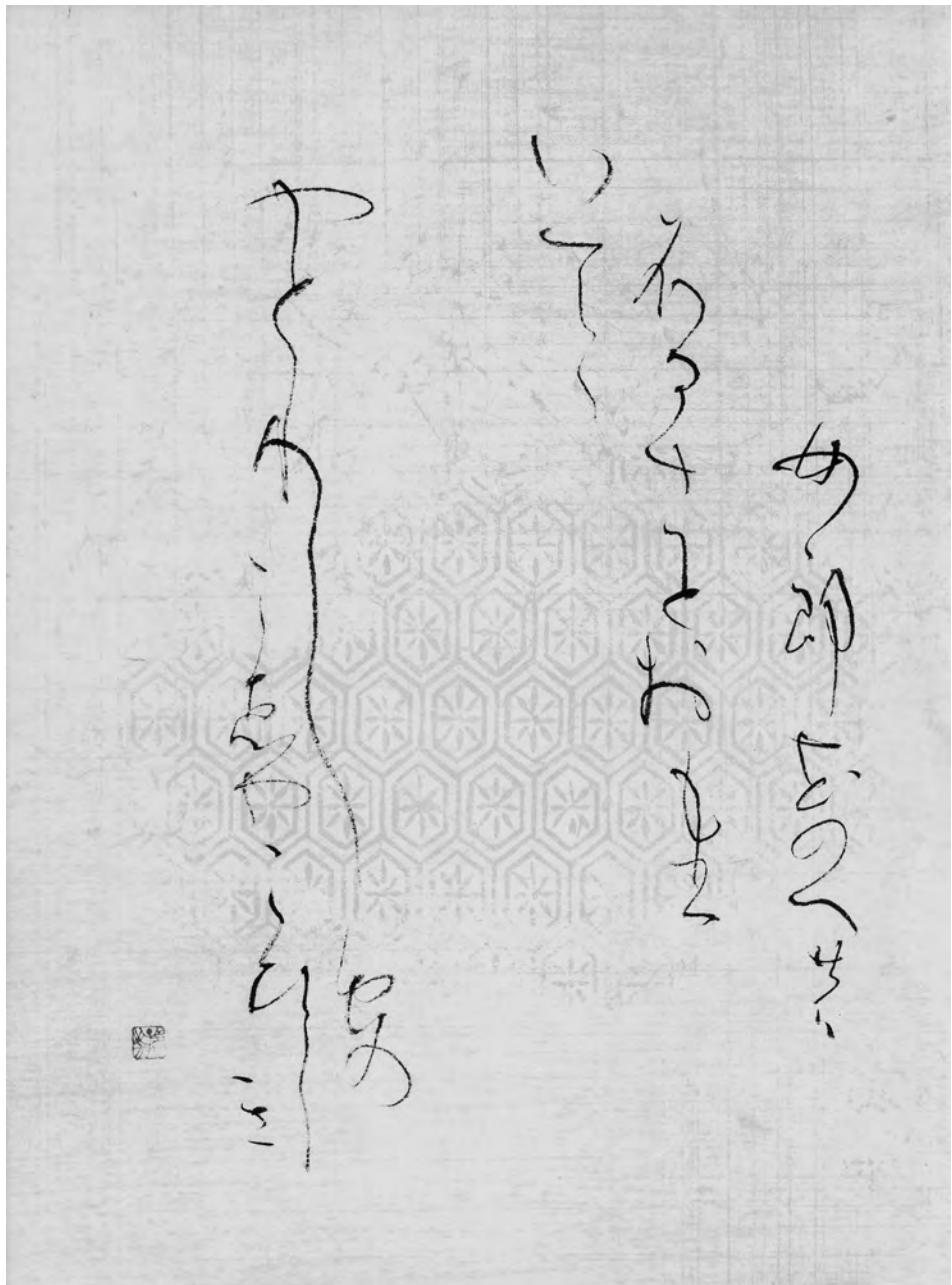
また、四行目やと利しではやの最終画と、との一画目を一体化し、利からしの線も同じように省略を繰り返しながら流麗さを表現しました。

しは長い線ですが単調にならないよう筆圧の変化に注意します。文字を変換して独自の省略した連綿を試みて下さい。

よみ方 をみなへし(女郎花)のべの(農)ふ(不)るさとおもひ(悲)出でて(ひこへ)

やどり(利)し虫のこゑやこひしき

創作



漢字条幅規定 初段以上【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

（陶潛）

崎井 惠風選書

習い方解説 (五)

崎井 惠風



書体=自由

*たて形式に限る

青い苔が広がる地上からは、残暑も消え、夕暮には緑樹の影に涼を追う。先月と同じ夕景の詩です。一貫した構成をと試みました。空間(余白)も大事にして下さい。

漢字条幅規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

最首翠風選書

習い方解説 (五)

最首 翠風



翠風書

書体=自由

悠然とした鄭道昭の書風は現代人にとって憧れの境地でしょう。羊毛筆を行い、藏峰で出来るだけゆっくり運筆しました。墨量を控え目にして摩崖碑の線の雰囲気を出しています。
積乱雲の逞しさを、造像記の書風で表現するのもいいですね。
——夏雲が種々変った峰の形をなして湧く——陶潛の詩中の一句

夏雲多奇峰
(夏雲奇峰多し)

(陶潛)

牧 泰濤

死期は序を待たず。死は、
前よりしも来たらず。かねて
後に迫れり、人皆死ある事
を知りて、待つことかも急な
うやうに、覚えずして来る。
（「徒然草」より）泰濤書

死の時に序曲はない。死は突然に来て、前からと思えば、後ろから追つて来ることもある。人間いつかは死ぬということを心して生きたいのです。

傘寿を目前に、まだまだやりたいことがあるって日々走りまわっている。「もっとどっしりと人生の終末」との声が耳の中に響くこともある。

「諭語」の中に「死して後已む」の語句がある。死なねば終わらないといふことである。曾子が春秋戦国時代の男の理想について語った言葉である。人は死ぬまで精いっぱい努力を続けるというのだが、その道は遠い。しかしその道中は苦難だけでなく、樂も又あるのである。書の道も又然りである。「生涯をかけて学ぶべきは死ぬことである」（セネカ）長生や短命が問題ではない。どれだけ充実した人生を送れるのかが大事と思うのです。

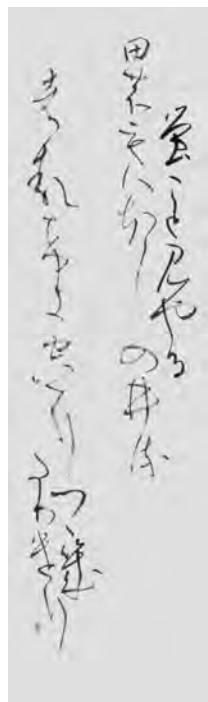
用紙＝はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体＝自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



京
絹
子
書

180×53cm

かな
(書風)

小川白舟書

「虫来と」

京
絹
子

◆穏やかな墨色が優しく伸びやかな作、前半は大成功。結句の文字を引きしめると更に効果的では?

(明子評)

◆やや大ぶりな表情で大らかに展開する。潤渴の変化も自然でよいが後半窮屈な感あり。余白に注意を。

(大雲評)

◆運腕大きく清々しい作品。さらには、文字の大小・墨の濃淡の変化を出し、紙面にメリハリがほしい。

(紅瑠評)

現代詩文書 (大雲)



小川白舟 「山法師」

53×174cm

◆重量感ある筆致が横展開の動きを伴い雄大さを見せる。渴筆部やや浮き過ぎの感あり。更に努力を。

(大雲評)

◆重厚な表現は見応えがあります。紙に食い込ませる筆致は、軽くないがちな自分の制作へのヒントです。

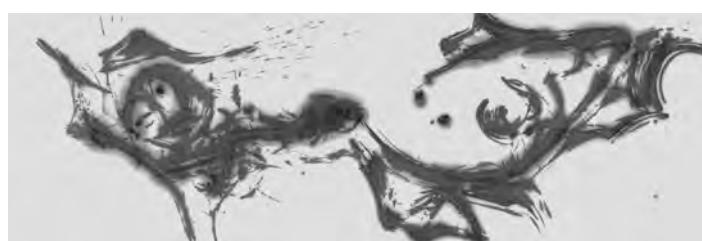
(明子評)

◆顔真卿の線がバックボーンとなつて重厚な作である。「押」のテヘン縦画を今少し伸ばしたかった。

(翠風評)

◆ダイナミックに、重厚かつ粘りある線質で表現。気力が充実し、躍動感にあふれた作品となつた。

(紅瑠評)



中塩朱華書

60×175cm

前衛書
(月華社)

中塩朱華
「伝える」

◆淡墨ながら豪快な作。三角形構成から生まれる余白が効果的に上部の広がり見事。雅印の位置一考。

(紅瑠評)

◆淡墨による潤渴を効果的に生かし、動きある作。やや墨色が濁り冴えが今一つ不足。更に工夫を。

(大雲評)

◆墨色が美しく、鋭角の中の円表現が心和ませる。飛翔して伝えるとする作者の心情が窺える。

(翠風評)

◆限りない抜がありと奥行を感じさせる作品です。“伝える”心は墨色の優しさと相俟って効果的です。

(明子評)

◆読みやすく流麗な大字仮名。結句の後にゆとりが欲しかった。

(翠風評)

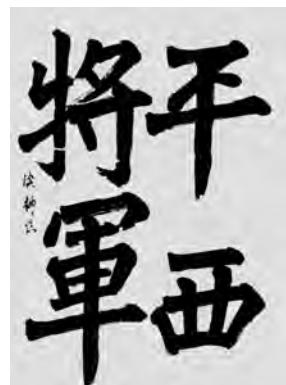
◆運腕大きく清々しい作品。さらには、文字の大小・墨の濃淡の変化を出し、紙面にメリハリがほしい。

(紅瑠評)

漢字研究部 (張猛龍碑)

選評 小 伏 小 扇

今月のホープ作品



阪本 溪柳

◎漢字研究部總評

◎漢字研究部総評
張猛龍碑は龍門の諸碑とは違った質の高い
品格を備えていて、剛健さの中に、さわやか
らしい作品です。張猛龍碑の特徴を思慮深く
把握しています。

さと深い味を有しています。その点を充分理解することなく、強さのみで書いた作品が沢山ありました。さらに誤字の多いのに驚きました。自分勝手に書かないで、中国書法がイドや五体字類を手はじめに、色々、調べてください。たて、よこ画の起筆の用筆が出来ていない作品も目立ちましたが、用筆は基本中の基本です。おろそかには出来ません。

幸 蒼作弦和
勝 子 風穗佳敬

惠惠宥和彩蒼
仙泉雨夏華信

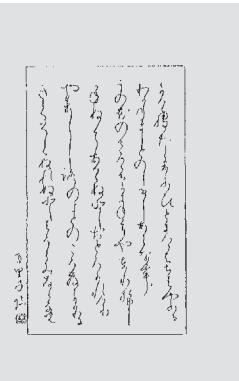
洋翠佳曉信雪
子雪波雲代簣

真一寬純蒼有里惠香平子琴理

かな研究部
(重之集)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



福田万里子

◎かな研究部総評

今回は、て・ねの誤字が多く見られました。全体的に特徴を良くとらえて書かれていただけに残念。日頃の鍛錬の賜物といえるでしょう。

のびやかに躍動する美しい線質は、力強くかつ優艶。自然な氣脈で運筆された作品は、墨色も美しく、拡大コピーで筆の動きを観察するのも良いでしょう。

かな研究部成績表

泰炎玉	玉寿ちえ	愛彩幹	春里雅
子秀枝	江子子	石香生	華美泉

菊澄石硯誠有椿 月春習水和秋翠 秀	大た蓮秀玉大高樹 雲か紅水松雲井原	蘭紅前如竹松高A上石玉う澄惹紅風 鼎瑠橋月鳳村崎！泉習松る春書泉	特選	福田万里子
岩岩犬伊石石安 田瀬鈎藤崎川美 作理	堀梅本富青磯吉近青森須春松山青松伊塚松小飯宇坂高福田萬里 切木田澤木貝田藤木田山村木浦藤本丸川高田川	幸宣美惠葵清り淑松直香勝泰玉王寿え愛彩幹里雅子雲山雪子郷顔か子月子舟美子秀枝江子子石香生華美泉子		
高陵佳	東調上硯長た玉青澄正生王 実布泉水月か	誠八松千た硯竜大竹大華安苑大白こ清た 和生村葉か水泉阪扇雲祥波書阪驚だ月か		
會木勇介	吉行山宮増浜長橋沼浪永豊田鉢新築鹿猿狼佐後小河河加小小乙大江梅 田平縣澤野谷本田川井中木谷田田雲渡渡々藤林岡合藤野野幡石津佳 眞良令草佳永千紅奎秋宏翠耶睦翠美志煌冬奎雅良萩星和雅久加萩智星茂代 理江子秋子葦峰霞心花枝玉衣心光子江月華右芳泉江扇敬芳美都光美祥夫子			

千童もく入	東華や玉竜松紅宗こ 伯様ま川泉村苑宛だ	千澄千秀玉一大た竜秀大やた澄千蒼上蒼高清た大若う英高大 葉春葉水川草阪か泉歌阪まか春葉原泉陽崎高月か雲葉る峰崎阪	正澄高大陽八戸岩沼 秀ここ正華春井真阪陽
足浅青木み 万な藤漣	山山山森茂茂宮三松増平花野中徳樋土筑田工高新渋齋後込小小河黒工木吉北金門加加小櫻梅岩岩市石石安 立川口木木木川嶋重田山中村田泉谷井中玉橋行谷田藤山峰林野柳藤村瀬村岡脇藤瀬明 眞喜内美		
若正生書春光弘硯八 春	高澄芳潮菊京椿蘭竜広沙附詢正幕生白広梓蘭福皓秀樹玉玄蕙秀白こ東誠澄竜玉千N誠大水も仙 松華大游汀昭舟水雲汀	高澄芳潮菊京椿蘭竜広沙附詢正幕生白広梓蘭福皓秀樹玉玄蕙秀白こ東誠澄竜玉千N誠大水も仙 松華大游汀昭舟水雲汀	正澄高大陽八戸岩沼 秀ここ正華春井真阪陽
菅神新庄下嶋波柴七塙佐酒齊齊斎近小小吳熊久工木北菊神川川川神加葛尾岡大大梅薄鶴植今今猪伊市池飯新熱 百沢保條司田谷條崎々井井藤藤藤藤林板谷保峰藤原村池田本元崎崎尾納原形村森塚原田澤田村井又藤川田泉井海 百合佳三味代由美翠裕明和知恵静江杏松晃く豊紫曾理香輝惠善典南茱優穂美順恵玉紅紀喜由虹春琴美貴花理良順萩洋藤桃 子郎艸子香子泉美子子子枝彩邑功春代ら美蘭美佳蘭子舟高子汀子美惠子美藻子代美祥綠舟枝泉枝扇佑子溪子雪翠			

昌琇蓮書清白華王高如五もあ英調菊玉墨白幕白書華上木泉前竹澄長大京幕正は高上雲玉倉耕春一大春大幸澄幕上秀山童華 遷苑韻紅游月鶯仙川崎月葉くか峰布月川宣露張珠徑仙泉曜会橋扇春月雲橋張華せ陵泉溪川吉雲汀宮雲汀阪扇春張泉水王泉仙 外175吉吉遊遊大山山谷矢八森森本村武宮湊真松松蔭前本堀北別船深平日春林林長丹中仲中中土渡鶴積田田高高砂鉢鈴鈴 名田川佐佐和崎口知木田吉田山藤崎庭村島苗田川多江條府津堀山高岡谷羽村西澤江井子田田原中橋橋橋木木木 氏名裕妃夕翠幸紅一紀香雪美登順陸蘿明龍蕙英美ケ陽翠真幸栄和幸靖信裕清だ右聰王美久惠ケ游よ弘紀雅惠良汐幸賢代洋春利智 綾惠雅榮江織翠子江子子谷香峰陸明子ミ子舟紀子子枝泉子子扇洗子真春華子子子子子子子子子子子子子子子子江子惠		
--	--	--